

眞因たるべき事實を答辯しなかつたか。恐らく政黨の反軍策動を暴露して彼等の感情を刺戟するを恐れた結果であらうと思ふけれど、かゝる遠慮は彼等に軍部くみし易しの感を起さしめて、其反軍策動に油を注ぐ所以であり一方に於て又部内の對政黨反感を助長する所以でもある。軍部大臣は更に斷乎たる決意を以て之に一大反撃を加へ、彼等をして再び反軍策動をなすの餘地なからしむべきであつた。

齋藤首相の態度に至つては更に意氣地なきに驚かざるを得ない。即ち軍民離間聲明に關しては何等其議に與からなかつたことを自白して、政黨の軍部攻撃を煽つた觀があり、而かも私に内閣書記官長をして政黨に對し軍部を刺戟せざる様諒解を求めしめた如きは、益々彼等を増長せしむべき種を蒔いたものである。特に前者の如きは責任を軍部大臣に轉嫁したものであつて、首相としての責任觀と、政治道德に關し疑念を抱かれても止むを得なすと思ふ。

結

論

前述各政黨の質問を通觀するとき、質問の内容が多くは巷説風評に立脚して居り、事實上の確實性を缺いて居る。然らばかゝる空漠たる事項を促へて、敢て質問せねばならぬ必要が何處にあるか。之れが國家の爲め必要であるならば止むを得ざるも、其結果は大局から見ても、國家に非常な不利を齎して居る。即ち内に在つては皇軍を中傷して、國民の信頼を失墜せしめんとし、外に對しては國內の不利一致を暴露して、國家の威信を傷けたこと著しく、我國交上に及ぼすべき不利は蓋し計り知るべからざるものがある。此の如き内外に對する國家の利益

を犠牲として彼等は果して何物を獲んとするか、恐らく軍部の缺點を指摘して政黨の威力を示し、五・一五事件以來失墜した其の信用を挽回して、政權獲得の素地を造る外何物でもなないであらう。果して然らば政黨政治の最大弊害として従來指摘せられた政權獲得を唯一の目標として、黨利黨略の爲めには國民幸福を犠牲として顧みざる弊風は、毫も改善せらるゝことなくして今日尙儼存せるを示したものである。

彼等は是等の攻撃的質問を以て成功したりと稱し、既に議會の信用は回復し、政黨政治復活の時機到來せりと宣傳是れ努めつゝあるも、國民は果して之を信ぜんとするか、従來政黨政治の謳歌者たりし東朝紙すら一月二十七日の社説に於て

問題は動機の純眞か否かで決せられる。人は他人の缺點を擧げる事で、自己を高め得ない。軍部に若し過誤あらば之を匡し、疑念あらば之を質すに何の躊躇を要しないが、若しそれが豫てから失墜して居た政黨の信用挽回の策略上、自己の向上努力の代りに、軍部の缺點指摘を以て局面の打開を計らうとする邪念に驅られての上ならば、その反映する所、軍部の感情悪化も招かうし、世間の尊敬も博されなす。

と論じて居る。

政黨の最大同情者たる東朝紙にして尙此言あり、以て一般國民の本問題に對する感情をトするに足るではないか。況んや國民の有識階級が政黨の言動に眉をひそめつゝあるは當然で、特に陸海軍の少壯將校を憤慨せしめたこと夥しく、曰く